

【表紙】

忠臣蔵 全三卷

【表紙 裏】

【1頁】

(十六ミリ)

忠臣蔵

全三卷 二八二米

台湾総督府

M二九七六号

検閲済

有効期間

自昭和十四年十一月八日

至昭和十七年十二月十七日

活動写真「フィルム」検閲検閲規則第十條第二項ニ依リ手数料ヲ免除ス
本「フィルム」小當利ノ目的ヲ以テ映写スルコトヲ得ズ

障害ナシ

【2頁】

【3頁】

忠臣蔵 全三卷

梗概

万世にまで忠臣義士とうたはるゝ赤穂義士が主君の仇を報ずる映画である
一般大人向青年向である

△ 字幕▽

1、マキノグラフ

2、故マキノ省三総監督 忠臣蔵

3、配役

大石内蔵之助

井伊蓉峯

吉良上野之介

市川小文治

片岡源後 工門高房

【4頁】

―。。。大石主悦良全 マキノ正博

浅野内匠頭 諸口十九

其他マキノオールスターキャスト

4、元禄十四年勅使餐應の御役目仰せ付けられたる播州赤穂の浅野内匠頭像州吉田の伊達左京亮は殿中儀礼司たる吉良上野之介の指図を仰ぎ傳奏也屋敷の設備に接伴に遺漏なきを期したのである

5、されど采配振る高家筆頭吉良上野之介賄賂を貪るに酷配迄食欲の心深い 彼の欲を求める右京之亮の贈り物に引替浅野家の貧弱なる礼物を見て彼は怒り立つた

6、偏狭なる上野之介の反感昂じて毒の針となり殊更に尖錯に導き陥れ一度ならず二度三度物笑ひの種にするされど内匠頭只昔に耐えて最後の御役たる奉答の御式の当日

7、御服装が違います”

8、昨日 吉良奴何と云った”

9、昨日の服装の儀は例年のごとくにござりませうな”

10、いや、麻の袴……な麻の袴ぢや”

11、勅使柳原郷より特に御出でにござる”

12、方々早己の刻でござる御出迎へのご用意!”

13、(画中文字) 高家詰所

14、今日の御役目勤まらぬ!”

15、昨日吉良殿の云はれたと事替わり何れも大紋烏帽子

16、君御安諸遊ばしませ御儀式の用意致し置きましてご座りまする”

17、して、御勅使御着の時刻は?”

18、今二夕時は有る筈の教へぢや”

19、なれど吉良殿の御教へには是迄数度の手違いご座りまする御油断あらせられますな”

【5頁】

20、お腹立は御尤もなれど今日一日の御堪心”

21、安心してくれようく心得て居る”

22、さらば……”

23、内匠頭様御奉答の御式は今し方”

24、相済みました様子に参りまする”

25、誰れぢや! 誰方ぢや!”

26、勅使饗慶役たる此處許が昼寝とは慮外千萬な……”

27、お茶坊主詰めませい……”

28、足らぬながら某此の度の大役おろそかには致し申さぬされど本日の御教へ何事も齟齬致し此の始末”

2 9 狼狽へられたか内匠頭今日の指図に間違ひあらば御一統晴れの座に居合わせられぬ
筈……なれそれを違へられしは貴殿一人”

3 0 “殿中のござるぞ”

3 1 “刀に手を掛け吉良を切る気か”

【6頁】

3 2 “御役怠慢の其処許を急に病氣と御上を取りなした親切者の吉良上野之介を貴殿は切る気か”

3 2 “恩義を仇で返されるつもりか謝罪せられい”

3 3 “本日拙者の残る役目御伝授お願い申す”

3 5 “貴殿は先日よりの不行届と手違手前の落度とも相成る”

3 6 “常に典礼書の一冊位は読んで置かれい”

3 7 “ご……御伝……授……を!”

3 8 “離せ!”

3 9 “此の程よりの遺恨!”

4 0 “覚えたか!!”

4 1 “武士の情ぢや放されい!” (画中文字)

4 2 “今一太刀を赦されい”

4 3 “各々方内匠頭狂気ではござらぬお手をゆるめられい”

4 4 “静かに御上の御意に従ひ申す”

【7頁】

4 5 “主家興亡の岐路に立ち鉄砲州お屋敷より本国赤穂への急使萱野三年速水藤左エ門

4 6 將軍備吉の激怒と大老標沢の吉良鬘貞とは上野之介に何の御咎めもなく假そめにも一

城の主に審門の儀もあらで即日切腹仰付られる

4 7 “片岡源吾エ門でござりまする”

4 8 “おゝ源吾か!”

4 9 “我君!”

5 0 “今世の御対顔かなひまするは現吾一人に参りまする”

5 1 “其方が忠々しい姿を見るもこれを限り……酬られぬ忠義喃”

5 2 “皆が忠義晴天忠義者に離散の面目を見せるも内匠頭不徳の致すところ”

5 3 “源吾エ門其方に頼み置く予が生涯の九寸五分は内臓に遺身ぢやと……よいか”

5 4 “心得てござりまする”

第一巻終

第二巻

1、マキノグラフ

【8頁】

2 故マキノ省三総監督

忠臣蔵

3 第二卷

4、折柄告ぐる暮大の鐘鳴呼斯くて恨みは長く長矩公は奉あるべき半世を無惨にも散らしたのである

5、小田原で馬乗り捨てた急使の兩名早駕籠は箱根を後に赤穂へ赤穂へ……………

6、〃太夫石が乱れます喃〃

7、〃早くば明け方遅くて明夕御大役滞りなく済ませられた知らせ参る筈それ迄良雪殿……………”

8、〃父上早打到着にムります”

9 〃一日早き打……………”

10 〃一大事出来”

11 御役目はまだ済まぬ取乱しては不忠ぞ”

12 〃手当をして進ぜい”

13 〃家中総登城を布れうれい”

14 翌れば十九日暁浅い夢を破つて主家の運命を齎す第二の□進いまは主なき本城へ

【9頁】

15 主家興亡を斉う議して昨日迄は三百七十余人詰めてあつたものを生命を待□しみ夜と共に消え失せ残るは僅かに六十二人”

16 籠城何するものぞ！いまは心静かに□□□て君主のお側に参らばやと希ふ

17、〃暫く待たれい！一期の相談残りある”

18、一旦腹かつさばいて又生きかへる術あらうかさらば一座の面々いづれもが鉄石心こゝに於て内蔵之介吉良邸に推参して上野之介の首挙げた暁こそ亡君が側に馳せ参ずる日ぞとさとして血判加盟を求めた

19 越えて四月十八日城地受取りの上使を迎える

20 〃御先祖代々…………”

21 我るも代々…………”

22 〃さあ参らう”

23 大石は御先祖代々の英□永へに腫る赤穂の城を今立ち去らんとする浅野侯の復仇一途に歩め一死君恩に報いとす悲壮！

24、赤穂を去つた内蔵之助長閑に山科の土に親しみ遠く島原祇園に浮れ歩き他意無きをよそをい復仇の期の全るを待つ

【10頁】

25 吉良の間者前野平内

26 〃ヤア敵の大將いで見参な仕らん”

27 〃今日は幸の鍋焼ヶ原酔ひ潰さん味方飲んだりく”

28 〃学さん今日は月こそ替れ十四日彼の方の御命日にとりわけ鍋焼きとは？”

29 〃ハテ今日は十四日であつたのかな？”

- 30 “仕舞ふに主人の命日を忘れてのけた”
31 “そなたに食べさせたいばかりに精進落しをした……もの替りにわが恋は……”
32 “叶へて下さるだらう喃浮橋！”
33 山科の宅
34 アツ太夫の！”
35 (画中文字) 冷光院殿吹毛玄利大居士
36 “夫の日夜の御苦労お察しするも涙の種此の上は足手まといの吾々……”
37 “才、母上御覧下さいませ”

【11頁】

- 38 “夫が日夜礼拝する太夫の木像”
39 “斯くなりましたは女は相応の覚悟をせねばなりせん”
40 斯くて妻も子も大石の元を去った
41 (画中文字) 浮鬼まアたいな
42 (〃) 挨の盃持ったそうぞ
43 “手の鳴る方へ……”
44 “捉まへて盃ちや”
45 “大石ワ！”
46 “血を押しした連判の盟ナツ何故に名を切り取った？！”
47 “此処は他人が多勢居られるサ左様な事を……口外されては……”
48 “御命日の今日大石此の態……”
49 “それで仇討が出来るのか”
50 “亡君尊霊をあざむく不忠者いざ成敗”
51 “浮さんを斬るなら一層妾を斬って”

【12頁】

- 52 “黙れ！”

殿より拝鎮の此刀売女風情を斬れぬ！ッ”

第二巻終

第三巻

- 1、マキノグラフ
2、故マキノ省三監督 忠臣蔵
3 第三巻
4、大きな望を胸に大石は立花左近の名を以て東下る途
5 因薪嘗跨時を得て元禄十五年十二月十四日赤穂浪士四十七人降りしきる雪を蹴って吉良邸へ
6 “討入れッ”

7 “いや／＼人違ひ申されるな拙者は□家の客ぢや吉良殿ではない”

8 “吉良様御覚悟！”

9 “怨敵上野之介の首を上げ本懐遂げし志士の面々凱歌を奏して引き上げ来るたつた”

両国橋

【13頁】

10 “早刻異形の風態してあるさへ心得ぬに多数隊をなして当御橋を押し渡るは何者だ！”

11 “故浅野内匠頭が家来亡君の仇吉良上野之介殿を打ち奉り只今高輪泉岳寺へ罷り越す次第にござります”

12 “当橋は諸侯登城の大手筋高輪に打越ゆるにはあれ見よ永代橋が架りある早々引返せ！”

13 “これは田舎侍の存ぜぬ事として危なく慮外相働き申す可き処よくぞお心づけ下し置れた”

14 “赤穂義士の快挙こそ徳川中紀の墮眠を破る一大警鐘であつたさればこそ武士道の精進として今の世迄四十七士の英□を吊ふ”

香華は絶えぬ

終

15 忠臣蔵

16 マーヴェルグラフ

【データ採録者・藤沼克行】

【データ校正・青木学】